



おのけうか
をいんら



あまけい推
るんえん



あま推
るんえん



あま推
るんえん



あま推
るんえん



あま推
るんえん



あま推
るんえん



あま推
るんえん



あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

あまのつとめ 判云 右前

礼年迄の貴及守の座を代志くお強し
 みろく山崎とるめり竹まひとくきらゆらぬ
 和名乃合いそと被しをの判者してあり
 青一種のれとめて酒盛し



わねりたるの志の果報や
 たぬさとも真他のい
 るとわれら
 ういさ

けしきのの
 もいんね

酒のいねらぬ
 や福のいねらぬ

酒のついでにね
のいじりして
や福



善の物申の猿

たき屋のまきくいのちこころは
月のすこころは

あはるの
猿のついでに

人の業と
とすい

さるの
さるの

なまの
なまの

山王の侍
山王の侍

卯月の
卯月の

行幸の
行幸の

猿の
猿の

はた
はた

ゆい
ゆい



はた
はた

き
き





猿の法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては



はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては
はねの法を會つては



其後あるとあるは... 名は... 又
 倉合とく... 山... 倉... 人... 判...
 活... を... 麻... 田... 使... 世... 係...
 極... 小... 節... 同... 使... 世... 係...
 志... 狸... 狸... 狸... 狸... 狸... 狸...
 山... 我... 我... 我... 我... 我... 我...
 て... 推... 推... 推... 推... 推... 推...
 か... 下... 下... 下... 下... 下... 下...
 人... 人... 人... 人... 人... 人...
 核... 核... 核... 核... 核... 核...
 序... 序... 序... 序... 序... 序...
 留... 留... 留... 留... 留... 留...

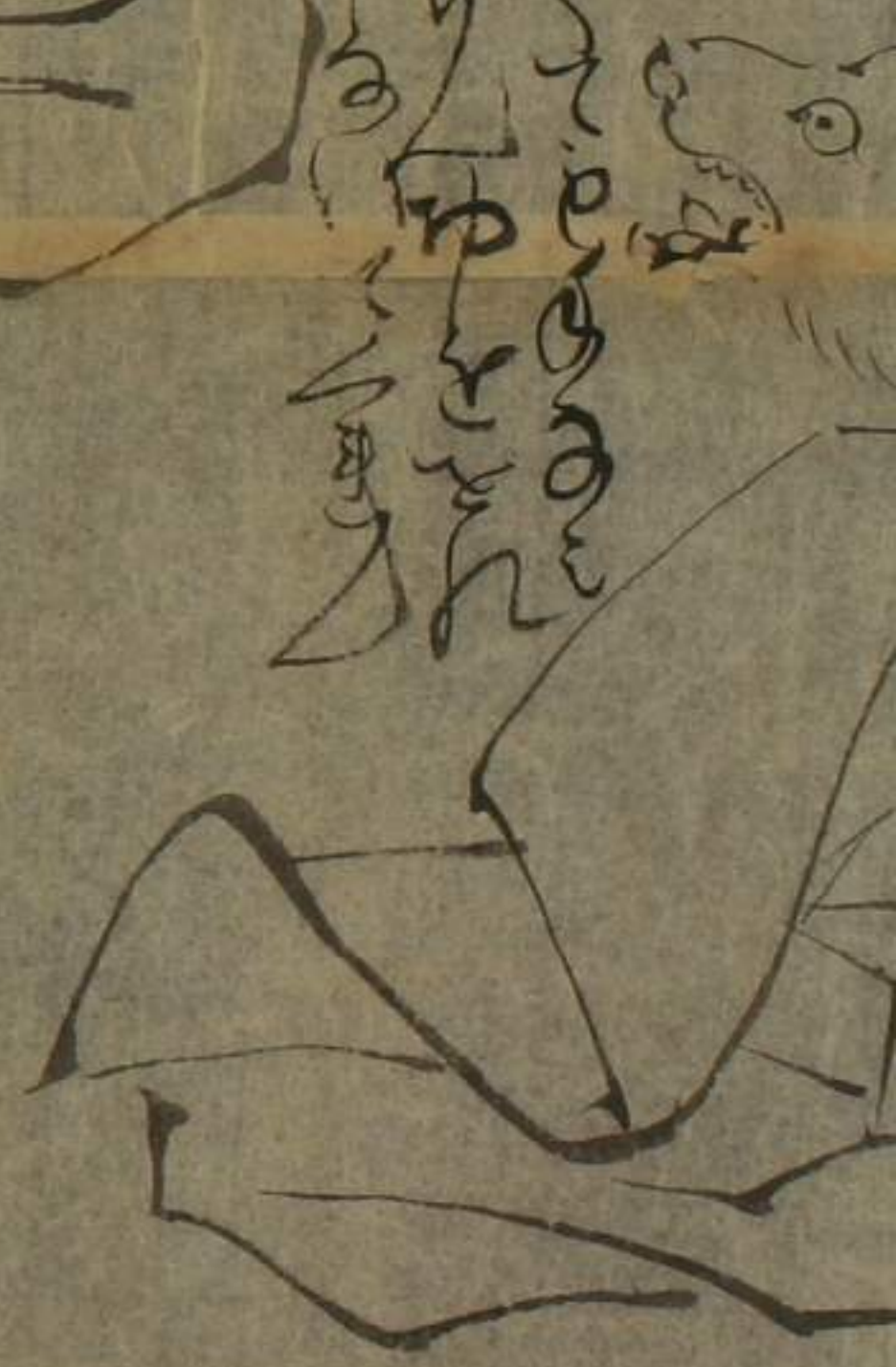


今も昔も同じくあはれ
くさくさな心持の酒
一月あちとくを流す
いはいの
月と燗
古坂寺のあはれ
たかやうにわらう
ふいふまはる
酒
なまはる
あはれ

たて
くら坊

あはれ
あはれ

卯
枝



あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

卯枝くららせし



狸くらら命いさそく
てんしんはる居ぬり
心しきりさるわの
金敷と改いけり
一編の軍つり

都久美あくとつ
多のひくの筆さ
梶原山つ先
若清北山乃
村なるもあぬ
侍大のあ
中をり
名儀留
月廿三
赤言の
せんし

若村小道
火
あ



赤い舌のあしあし
 杖の終極押さる
 せんせいの
 せんせいの
 せんせいの

赤い舌のあしあし
 杖の終極押さる
 せんせいの
 せんせいの



赤い舌のあしあし
 杖の終極押さる
 せんせいの
 せんせいの



赤い舌のあしあし
 杖の終極押さる
 せんせいの
 せんせいの



赤い舌のあしあし
 杖の終極押さる
 せんせいの
 せんせいの



昔々一時よ
左下と裏系
お孫はくか
小のてん
うん



赤付る人
故敷と
うん



十二類
何事
新馬
年大
前川
清

村馬
見
P
合

赤付
子
うん



白
け
うん



男の格
肥
多
ん



十二類
の
年
大
前
川
清



村
鳥
と
見
一
と
一
と
一

取
付
の
星
光
と
わ
ら
ぬ
と
あ
ら
ま



三卷之内

寛文四年

甲辰

六月廿三日写之

小瀬傳右衛門主

十二類繪詞

